

病院における包括的なケア(広義のヘルスプロモーション)の実態調査

【お願い】本調査は、医療機関・介護施設などにおいて、人々の生活習慣行動の支援や地域における健康な生活への配慮（広義のヘルスプロモーション）が重要になってきているという流れのもと、その実態や具体的活動を調べるために、実施するものです。

ここで、広義のヘルスプロモーションとは、

- ・生活習慣や行動の支援（医療介護での自己管理や決定の支援、疾病予防・悪化予防、介護予防）
- ・社会経済要因の評価・支援（経済的困難、孤立など）
- ・高齢者の特徴や地域における生活への配慮（地域包括ケアの視点）
- ・健康的な職場づくり

などの、包括的なケアを指します。

ちなみに世界には WHO が開始した国際ネットワーク International Network of Health Promoting Hospitals & Health Services(HPH)があり、その加盟組織として我が国にも日本 HPH ネットワーク(J-HPH)があります。

ご多用中とは存じますが、関係部署ご担当者様は、ぜひご協力ください。

ご回答は任意で、参加しても参加を拒否しても直接的不利益はありません。調査票への回答を持って

1. 貴施設の基本情報について、お尋ねします。

- (S1) 機関名：[]
- (S2) ご連絡先 email: [] Tel: []
- ご担当部署：[] ご職位：[]
- ご氏名：[]

(S3) 各病床数につき、お教えてください。

①一般病床数（②～⑦以外）：

☐1. なし ☐2. 1～50 床 ☐3. 50～199 床 ☐4. 200～499 床 ☐5. 500 床以上

②地域包括ケア病床 [] 床 ③回復期リハ病床 [] 床 ④緩和ケア病床 [] 床

⑤精神病床 [] 床 ⑥療養病床数 [] 床

⑦その他 [] [] 床

2. 貴施設の包括的なケア（予防*や社会経済・生活等への配慮）に関連する具体的な活動について、お尋ねします。[*健診は除きます]

Q1. 患者へのアプローチとして、重要視されている点は何ですか。（複数回答可）

- ☐1. 患者中心医療のためのツールの活用（高齢者総合機能評価:CGA、国際生活機能分類:ICF 等）
- ☐2. 生活習慣の行動変容の支援（禁煙、節酒、減量など）
- ☐3. 社会的処方やその試み、経済状態や孤立の有無など健康の社会的決定要因の評価と支援
- ☐4. 高齢者の特徴に合わせた医療の徹底（薬剤指針、ハイリスク把握、ニーズ対応、退院調整等）
- ☐5. その他（具体的にご記入ください） []

Q2. 貴施設では、患者が経済的状況や社会的状況で困っていることを確認したり、スクリーニングするためのツールやチェックリストなどを使用していますか。

- ☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q3. 患者さんへ診療関連の情報を提供するに際し、患者満足度評価が行われていますか。またその結果は医療の質の管理システムに組み込まれていますか。

- ☐1. 評価され、組み込まれている ☐2. 評価されているが、組み込まれていない ☐3. されていない

Q10. 高齢者などにやさしい施設（設備・環境、支援、サービス、他機関との連携など）となるために、具体的にどのような取組みをされていますか。

Q11. 職員へのアプローチとして取り組まれていることを選択してください。（複数回答可）

- ☐1. 新入職員は、病院の保健・予防や地域包括ケア（ヘルスプロモーション）の方針を扱った導入研修を受けている
- ☐2. 職員の健康問題に関する啓発方針がある（喫煙、アルコール、薬物乱用、運動についての方針等）
- ☐3. 健康に関する教育と行動変容のためのプログラムを提供している
- ☐4. その他（具体的にご記入ください） []

Q12. 日本 HPH ネットワーク(J-HPH)に参加されていますか？

- ☐1. はい ☒2. いいえ ☐3. わからない

→ Q13.へお進みください

上記の Q12. で「はい」と回答された方へ、お尋ねします。

上記の Q12. で「はい」と回答された方へ、お尋ねします。

Q12a. J-HPH へ参加されてから何年になりますか。

- ☐1. 1 年未満 ☐2. 1-3 年 ☐3. 3-5 年 ☐4. 6 年以上

Q12b. HPH の理念について、施設の基本方針などへ明記されていますか。

- ☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q12c. HPH を推進するために、担当者や専門部署、チームなどを設置されていますか。

- ☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q12d. (Q12c)で「はい」と回答された方へお尋ねします。その部署・チームにはどのような職種が何名いますか。

専任 : ☐1. 有()名 ☐2. 無

職種 : ☐1. 医師()名 ☐2. 看護師()名 ☐3. 社会福祉士()名 ☐4. 事務部門()名
☐5. 栄養士()名 ☐6. リハビリの療法士[PT,OT,ST]()名 ☐7. 歯科医()名
☐8. 歯科衛生士()名 ☐8. その他[]()名

Q12e. HPH 活動により、これまでにどのような活動や成果が生まれましたか。（複数回答可）

- ☐1. 多職種カンファレンス院内指針 ☐2. 健康の社会的な要因に関するツールやガイドの導入
- ☐3. 地域活動の展開 ☐4. 生活習慣に対する行動変容の介入の発展
- ☐5. 職員の健康づくりの進展 ☐6. 広報活動 ☐7. 多施設共同研究
- ☐8. 学会・論文発表 ☐9. 書籍（翻訳含む）の発刊
- ☐10. その他（具体的にご記入ください） []
-

病院用

Q13. 我が国における HPH(Health Promoting Hospitals & Health Services)のネットワークが医療機関に広がりにくい理由として考えられることや普及のための提案など、ご記載ください。

Q14. これまで活動の中で、特に困難を感じたこと、改善策などがあればご記載ください。

★お願い：貴施設の包括的なケア(予防*や社会経済・生活等への配慮)の活動について資料(記事、紹介文、パンフ等)がございましたら、返信用封筒に同封していただければ幸いです。[*健診は除きます]

ご協力ありがとうございました。

- 京都大学 大学院医学研究科 相談窓口：総務企画課 研究推進掛
TEL:075-753-9301 E-mail: 060kensui@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
- 本調査相談窓口：京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野
TEL: 075-753-4454 /FAX: 075-753-4455 E-mail: heqm-office@umin.ac.jp
本調査の責任者：今中 雄一、担当者：佐々木典子

診療所における包括的なケア(広義のヘルスプロモーション)の実態調査

【お願い】本調査は、医療機関・介護施設などにおいて、人々の生活習慣行動の支援や地域における健康な生活への配慮(広義のヘルスプロモーション)が重要になってきているという流れのもと、その実態や具体的活動を調べるために、実施するものです。

ここで、広義のヘルスプロモーションとは、

- ・生活習慣や行動の支援(医療介護での自己管理や決定の支援、疾病予防・悪化予防、介護予防)
- ・社会経済要因の評価・支援(経済的困難、孤立など)
- ・高齢者の特徴や地域における生活への配慮(地域包括ケアの視点)
- ・健康的な職場づくり

などの、包括的なケアを指します。

ちなみに世界には WHO が開始した国際ネットワーク International Network of Health Promoting Hospitals & Health Services(HPH)があり、その加盟組織として我が国にも日本 HPH ネットワーク(J-HPH)があります。

ご多用中とは存じますが、関係部署ご担当者様は、ぜひご協力ください。

ご回答は任意で、参加しても参加を拒否しても直接的不利益はありません。調査票への回答を持って

1. 貴施設の基本情報について、お尋ねします。

- (S1) 診療所名: []
- (S2) 主たる診療科: []
- (S3) ご連絡先 email: [] Tel: []
- ご担当部署: [] ご職位: []
- ご氏名: []
- (S4) 医師数をお教えてください。
- ①常勤: []人 ②(常勤・非常勤合わせての)常勤換算人数: []人

1. 貴施設の包括的なケア(予防*や社会経済・生活等への配慮)に関連する具体的な活動について、お尋ねします。[*健診は除きます]

Q1. 患者へのアプローチとして、重要視されている点は何ですか。(複数回答可)

- ☐1. 患者中心医療のためのツールの活用(高齢者総合機能評価:CGA、国際生活機能分類:ICF 等)
- ☐2. 生活習慣の行動変容の支援(禁煙、節酒、減量など)
- ☐3. 社会的処方やその試み、経済状態や孤立の有無など健康の社会的決定要因の評価と支援
- ☐4. 高齢者の特徴に合わせた医療の徹底(薬剤指針、ハイリスク把握、ニーズ対応、退院調整等)
- ☐5. その他(具体的に記入ください) []

Q2. 貴施設では、患者が経済的状況や社会的状況で困っていることを確認したり、スクリーニングするためのツールやチェックリストなどを使用していますか。

- ☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q3. 患者さんへ診療関連の情報を提供するに際し、患者満足度評価が行われていますか。またその結果は医療の質の管理システムに組み込まれていますか。

- ☐1. 評価され、組み込まれている ☐2. 評価されているが、組み込まれていない ☐3. されていない

Q4. 社会的弱者へのアプローチとして、無料低額診療事業を実施していますか。

実施している場合、いつからですか。

- ☐1. はい (西暦[]年～) ☐2. いいえ

Q5. 地域へのアプローチとして、地域住民へ働きかけたり、地域へ展開する上で重要視されている点は何か。(複数回答可)

- ☐1.健診 ☐2.疾病予防活動 ☐3.介護予防活動 ☐4.患者会
☐5.ウォーキングなどの健康づくり活動 ☐6.介護者会・家族会等（当事者支援活動）
☐7.生活困窮者への相談活動（食料の無料配布含む） ☐8.患者・地域住民向けの講演会
☐9.広報活動 ☐10.まちづくりとの連携
☐11.その他（具体的にご記入ください） []

Q6. 地域へのアプローチとして、地域住民が参加できたり地域住民とともに行う活動として具体的に取組んでおられることがあれば、教えてください。(複数回答可)

- ☐1.患者会、患者向け教室（糖尿病教室など） ☐2.認知症サポーター養成 ☐3.認知症カフェ
☐4.地域住民向け講演会主催や講師の派遣 ☐5.健康測定（健診以外）
☐6.病院祭、オープンホスピタル ☐7.地域ケア会議への参加 ☐8.多職種連携会議への参加
☐9.町内会等とのイベント ☐10.地域住民との防災訓練
☐11.その他（具体的にご記入ください） []

Q7. 「社会的処方」とは何かご存じですか。また、貴施設では行われていますか。

- ☐1.知らない ☐2.知っているが、当施設では行われていない。
☐3.知っている。当施設では行われている。

Q8. 患者さんの健康や生活支援に、地域との関りは重要です。地域の中で連携している医療介護以外の組織や場を、できるだけ多く具体的に列挙してください。

（NPO 法人、つどいの場、認知症カフェ、無料食堂、外国人支援団体、その他何でも）

--

Q9. 地域へのアプローチとして、力をいれていることについて具体的にご記入ください。

--

Q10. 高齢者などにやさしい施設（設備・環境、支援、サービス、他機関との連携など）となるために、具体的にどのような取組みをされていますか。

--

Q11. 職員へのアプローチとして取り組まれていることを選択してください。(複数回答可)

- ☐1. 新入職員は、病院の保健・予防や地域包括ケア（ヘルスプロモーション）の方針を扱った導入研修を受けている
☐2. 職員の健康問題に関する啓発方針がある（喫煙、アルコール、薬物乱用、運動についての方針等）
☐3. 健康に関する教育と行動変容のためのプログラムを提供している
☐4. その他（具体的にご記入ください） []

Q12. 日本 HPH ネットワーク(J-HPH)に参加されていますか？

☐1. はい ☒2. いいえ ☐3. わからない

→ Q13.へお進みください

上記の Q12. で「はい」と回答された方へ、お尋ねします。

Q12a. J-HPH へ参加されてから何年になりますか。

☐1. 1 年未満 ☐2. 1-3 年 ☐3. 3-5 年 ☐4. 6 年以上

Q12b. HPH の理念について、施設の基本方針などへ明記されていますか。

☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q12c. HPH を推進するために、担当者や専門部署、チームなどを設置されていますか。

☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q12d. (Q12c)で「はい」と回答された方へお尋ねします。その部署・チームにはどのような職種が何名いますか。

専任 : ☐1. 有()名 ☐2. 無

職種 : ☐1. 医師()名 ☐2. 看護師()名 ☐3. 社会福祉士()名 ☐4. 事務部門()名
☐5. 栄養士()名 ☐6. リハビリの療法士[PT,OT,ST]()名 ☐7. 歯科医()名
☐8. 歯科衛生士()名 ☐8. その他[]()名

Q12e. HPH 活動により、これまでにどのような活動や成果が生まれましたか。(複数回答可)

- ☐1. 多職種カンファレンス院内指針 ☐2. 健康の社会的・経済的な要因に関するツールやガイドの導入
☐3. 地域活動の展開 ☐4. 生活習慣に対する行動変容の介入の発展
☐5. 職員の健康づくりの進展 ☐6. 広報活動 ☐7. 多施設共同研究
☐8. 学会・論文発表 ☐9. 書籍(翻訳含む)の発刊
☐10. その他(具体的にご記入ください) []

Q13. 我が国における HPH(Health Promoting Hospitals & Health Services)のネットワークが医療機関に広がりにくい理由として考えられることや普及のための提案など、ご記載ください。

Q14. これまで活動の中で、特に困難を感じたこと、改善策などがあればご記載ください。

★お願い：貴施設の包括的なケア(予防*や社会経済・生活等への配慮)の活動について資料(記事、紹介文、パンフ等)がございましたら、返信用封筒に同封していただければ幸いです。[*健診は除きます]

ご協力ありがとうございました。

○京都大学 大学院医学研究科 相談窓口：総務企画課 研究推進掛

TEL:075-753-9301 E-mail: 060kensui@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

○本調査相談窓口：京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野

TEL: 075-753-4454 /FAX: 075-753-4455 E-mail: heqm-office@umin.ac.jp

本調査の責任者：今中 雄一、担当者：佐々木典子

薬局における包括的なケア(広義のヘルスプロモーション)の実態調査

【お願い】本調査は、医療機関・介護施設などにおいて、人々の生活習慣行動の支援や地域における健康な生活への配慮（広義のヘルスプロモーション）が重要になってきているという流れのもと、その実態や具体的活動を調べるために、実施するものです。

ここで、広義のヘルスプロモーションとは、

- ・生活習慣や行動の支援（医療介護での自己管理や決定の支援、疾病予防・悪化予防、介護予防）
- ・社会経済要因の評価・支援（経済的困難、孤立など）
- ・高齢者の特徴や地域における生活への配慮（地域包括ケアの視点）
- ・健康的な職場づくり

などの、包括的なケアを指します。

ちなみに世界には WHO が開始した国際ネットワーク International Network of Health Promoting Hospitals & Health Services(HPH)があり、その加盟組織として我が国にも日本 HPH ネットワーク(J-HPH)があります。

ご多用中とは存じますが、関係部署ご担当者様は、ぜひご協力ください。

1. 貴施設の基本情報について、お尋ねします。

- (S1) 機関名：[]
- (S2) ご連絡先 email: []
- Tel: []
- ご担当部署: [] ご職位: []
- ご氏名: []
- (S3) 貴薬局（単体）あたり薬剤師数： ☐ 1. 1～3 名 ☐ 2. 4～6 名 ☐ 3. 7 名以上
- (S4) 薬局店舗数： ☐ 1. 1 店舗 ☐ 2. 2～30 店舗 ☐ 3. 30～99 店舗 ☐ 4. 100 店舗以上
- (S5) 在宅加算割合* []%
- (S6) かかりつけ薬剤師割合** []%

*在宅加算割合：「在宅患者調剤加算」届出薬局数÷薬局店舗数

**かかりつけ薬剤師割合：「かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料」届出薬局数÷薬局店舗数

2. 貴施設の包括的なケア（予防*や社会経済・生活等への配慮）に関連する具体的な活動について、お尋ねします。[*健診は除きます]

Q1. 患者へのアプローチとして、重要視されている点は何ですか。（複数回答可）

- ☐ 1. 患者中心医療のためのツールの活用（高齢者総合機能評価:CGA、国際生活機能分類:ICF 等）
- ☐ 2. 生活習慣の行動変容の支援（禁煙、節酒、減量など）
- ☐ 3. 社会的処方やその試み、経済状態や孤立の有無など健康の社会的決定要因の評価と支援
- ☐ 3. 高齢者の特徴に合わせた医療の徹底（薬剤指針、ハイリスク把握、ニーズ対応、退院調整等）
- ☐ 4. その他（具体的にご記入ください） []

Q2. 貴施設では患者が経済的状況や社会的状況で困っていることを確認したり、スクリーニングするためのツールやチェックリストなどを使用していますか。

- ☐ 1. はい ☐ 2. いいえ ☐ 3. わからない

Q3. 患者さんへ診療関連の情報を提供するに際し、患者満足度評価が行われていますか。またその結果は医療の質の管理システムに組み込まれていますか。

- ☐ 1. 評価され、組み込まれている ☐ 2. 評価されているが、組み込まれていない ☐ 3. されていない

Q4. 社会的弱者へのアプローチとして、無料低額診療事業に関連するサポートを実施していますか。

実施している場合、いつからですか。

- ☐1. はい（西暦[]年～） ☐2. いいえ

Q5. 地域へのアプローチとして、地域住民へ働きかけたり、地域へ展開する上で重要視されている点は何ですか。（複数回答可）

- ☐1. 健診 ☐2. 疾病予防活動 ☐3. 介護予防活動 ☐4. 患者会
☐5. ウォーキングなどの健康づくり活動 ☐6. 介護者会・家族会等（当事者支援活動）
☐7. 生活困窮者への相談活動（食料の無料配布含む） ☐8. 患者・地域住民向けの講演会
☐9. 広報活動 ☐10. まちづくりとの連携
☐11. その他（具体的にご記入ください） []

Q6. 地域へのアプローチとして、地域住民が参加できたり地域住民とともに行う活動として具体的に取組んでおられることがあれば、教えてください。（複数回答可）

- ☐1. 患者会、患者向け教室（糖尿病教室など） ☐2. 認知症サポーター養成 ☐3. 認知症カフェ
☐4. 地域住民向け講演会主催や講師の派遣 ☐5. 健康測定（健診以外）
☐6. 病院祭、オープンホスピタル ☐7. 地域ケア会議への参加 ☐8. 多職種連携会議への参加
☐9. 町内会等とのイベント ☐10. 地域住民との防災訓練
☐11. その他（具体的にご記入ください） []

Q7. 「社会的処方」とは何かご存じですか。また、貴施設では行われていますか。

- ☐1. 知らない ☐2. 知っているが、当施設では行われていない。
☐3. 知っている。当施設では行われている。

Q8. かかりつけ薬局としての活動をされていますか。されている場合、具体的な内容をお教えてください。

- ☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

具体的内容：[]

Q9. 患者さんの健康や生活支援に、地域との関りは重要です。地域の中で連携している医療介護以外の組織や場を、できるだけ多く具体的に列挙してください。

（NPO 法人、つどいの場、認知症カフェ、無料食堂、外国人支援団体、その他何でも）

--

Q10. 地域へのアプローチとして、力をいれていることについて具体的にご記入ください。

--

Q11. 高齢者などにやさしい施設（設備・環境、支援、サービス、他機関との連携など）となるために、具体的にどのような取組みをされていますか。

--

Q12. 職員へのアプローチとして取り組まれていることを選択してください。(複数回答可)

- ☐1. 新入職員は、病院のヘルスプロモーションの方針を扱った導入研修を受けている
☐2. 職員の健康問題に関する啓発方針がある(喫煙、アルコール、薬物乱用、運動についての方針等)
☐3. 健康に関する教育と行動変容のためのプログラムを提供している
☐4. その他(具体的にご記入ください) []

Q13. 日本 HPH ネットワーク(J-HPH)に参加されていますか？

- ☐1. はい ☒2. いいえ ☐3. わからない

→ Q14.へお進みください

上記の Q13. で「はい」と回答された方へ、お尋ねします。

Q13a. J-HPH へ参加されてから何年になりますか。

- ☐1. 1 年未満 ☐2. 1-3 年 ☐3. 3-5 年 ☐4. 6 年以上

Q13b. HPH の理念について、施設の基本方針などへ明記されていますか。

- ☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q13c. HPH を推進するために、担当者や専門部署、チームなどを設置されていますか。

- ☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q13d. (Q13c) で「はい」と回答された方へお尋ねします。その部署・チームにはどのような職種が
何名いますか。

専任 : ☐1.有()名 ☐2.無

職種 : ☐1.医師()名 ☐2.看護師()名 ☐3.社会福祉士()名 ☐4.事務部門()名
☐5.管理栄養士()名 ☐6.リハビリの療法士[PT,OT,ST]()名 ☐7.歯科医()名
☐8.歯科衛生士()名 ☐8.その他[]()名

Q13e. HPH 活動により、これまでにどのような活動や成果が生まれましたか。(複数回答可)

- ☐1. 多職種カンファレンス院内指針 ☐2. 健康の社会的・経済的な要因に関するツールやガイドの導入
☐3. 地域活動の展開 ☐4. 生活習慣に対する行動変容の介入の発展
☐5. 職員の健康づくりの進展 ☐6. 広報活動 ☐7. 多施設共同研究
☐8. 学会・論文発表 ☐9. 書籍(翻訳含む)の発刊
☐10. その他(具体的にご記入ください) []

Q14. 我が国における HPH(Health Promoting Hospitals & Health Services)のネットワークが医療機関に
広がりにくい理由として考えられることや普及のための提案など、ご記載ください。

Q15.これまで活動の中で、特に困難を感じたこと、改善策などがあればご記載ください。

★お願い：貴施設の包括的なケア(予防*や社会経済・生活等への配慮)の活動について資料(記事、紹介文、パン
フ等)がございましたら、返信用封筒に同封していただければ幸いです。[*健診は除きます]

ご協力ありがとうございました。

○京都大学 大学院医学研究科 相談窓口：総務企画課 研究推進掛

TEL:075-753-9301 E-mail: 060kensui@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

○本調査相談窓口：京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野

TEL: 075-753-4454 /FAX: 075-753-4455 E-mail: heqm-office@umin.ac.jp

本調査の責任者：今中 雄一、担当者：佐々木典子

介護事業所における包括的なケア(広義のヘルスプロモーション)の実態調査

【お願い】本調査は、医療機関・介護施設などにおいて、人々の生活習慣行動の支援や地域における健康な生活への配慮（広義のヘルスプロモーション）が重要になってきているという流れのもと、その実態や具体的活動を調べるために、実施するものです。

ここで、広義のヘルスプロモーションとは、

- ・生活習慣や行動の支援（医療介護での自己管理や決定の支援、疾病予防・悪化予防、介護予防）
- ・社会経済要因の評価・支援（経済的困難、孤立など）
- ・高齢者の特徴や地域における生活への配慮（地域包括ケアの視点）
- ・健康的な職場づくり

などの、包括的なケアを指します。

ちなみに世界には WHO が開始した国際ネットワーク International Network of Health Promoting Hospitals & Health Services(HPH)があり、その加盟組織として我が国にも日本 HPH ネットワーク(J-HPH)があります。

ご多用中とは存じますが、関係部署ご担当者様は、ぜひご協力ください。

ご回答は任意で、参加しても参加を拒否しても直接的不利益はありません。調査票への回答を持って

1. 貴施設の基本情報について、お尋ねします。

- (S1) 機関名：[]
- (S2) ご連絡先 email: [] Tel: []
- ご担当部署：[] ご職位：[]
- ご氏名：[]
- (S3) 貴事業所(単体)の主たる提供サービスを選択してください。（複数回答可）
- ☐ 1. 居宅介護支援
 - ☐ 2. 訪問系（訪問介護／訪問看護）
 - ☐ 3. 通所系（通所介護／通所リハビリ／小規模多機能型居宅介護）
 - ☐ 4. 施設・居住系（介護老人福祉施設／介護老人保健施設／認知症対応型共同生活介護）
- (S4) 看取り加算をとっていますか。 ☐ 1. はい ☐ 2. いいえ ☐ 3. 該当しない

1. 貴施設の包括的なケア（予防*や社会経済・生活等への配慮）に関連する具体的な活動について、お尋ねします。[*健診は除きます]

Q1. 利用者へのアプローチとして、重要視されている点は何ですか。（複数回答可）

- ☐ 1. 利用者中心医療のためのツールの活用（高齢者総合機能評価:CGA、国際生活機能分類:ICF 等）
- ☐ 2. 生活習慣の行動変容の支援（禁煙、節酒、減量など）
- ☐ 3. 社会的処方やその試み、経済状態や孤立の有無など健康の社会的決定要因の評価と支援
- ☐ 4. 高齢者の特徴に合わせた医療の徹底（薬剤指針、ハイリスク把握、ニーズ対応、退院調整等）
- ☐ 5. その他（具体的にご記入ください）[]

Q2. 貴事業所では利用者が経済的状況や社会的状況で困っていることを確認したり、スクリーニングするためのツールやチェックリストなどを使用していますか。

- ☐ 1. はい ☐ 2. いいえ ☐ 3. わからない

Q3. 利用者へ診療関連の情報を提供するに際し、利用者満足度評価が行われていますか。またその結果は医療の質の管理システムに組み込まれていますか。

- ☐ 1. 評価され、組み込まれている ☐ 2. 評価されているが、組み込まれていない ☐ 3. されていない

Q4. 社会的弱者へのアプローチとして、生活保護申請の援助のサポート（適切な窓口の紹介）等を実施していますか。実施している場合、いつからですか。

- ☐1. はい（西暦[]年～） ☐2. いいえ

Q5. 地域へのアプローチとして、地域住民へ働きかけたり、地域へ展開する上で重要視されている点は何ですか。（複数回答可）

- ☐1. 健診 ☐2. 疾病予防活動 ☐3. 介護予防活動 ☐4. 利用者会
☐5. ウォーキングなどの健康づくり活動 ☐6. 介護者会・家族会等（当事者支援活動）
☐7. 生活困窮者への相談活動（食料の無料配布含む） ☐8. 患者・地域住民向けの講演会
☐9. 広報活動 ☐10. まちづくりとの連携
☐11. その他（具体的にご記入ください） []

Q6. 地域へのアプローチとして、地域住民が参加できたり地域住民とともに行う活動として具体的に取組んでおられることがあれば、教えてください。（複数回答可）

- ☐1. 利用者会、利用者向け教室（糖尿病教室など） ☐2. 認知症サポーター養成 ☐3. 認知症カフェ
☐4. 地域住民向け講演会主催や講師の派遣 ☐5. 健康測定（健診以外）
☐6. 病院祭、オープンホスピタル ☐7. 地域ケア会議への参加 ☐8. 多職種連携会議への参加
☐9. 町内会等とのイベント ☐10. 地域住民との防災訓練
☐11. その他（具体的にご記入ください） []

Q7. 「社会的処方」とは何かご存じですか。また、貴施設では行われていますか。

- ☐1. 知らない ☐2. 知っているが、当施設では行われていない。
☐3. 知っている。当施設では行われている。

Q8. 患者さんの健康や生活支援に、地域との関わりは重要です。地域の中で連携している医療介護以外の組織や場を、できるだけ多く具体的に列挙してください。

（NPO 法人、つどいの場、認知症カフェ、無料食堂、外国人支援団体、その他何でも）

--

Q9. 地域へのアプローチとして、力をいれていることについて具体的にご記入ください。

--

Q10. 高齢者などにやさしい施設（設備・環境、支援、サービス、他機関との連携など）となるために、具体的にどのような取組みをされていますか。

--

Q11. 職員へのアプローチとして取り組まれていることを選択してください。（複数回答可）

- ☐1. 新入職員は、病院のヘルスプロモーションの方針を扱った導入研修を受けている
☐2. 職員の健康問題に関する啓発方針がある（喫煙、アルコール、薬物乱用、運動についての方針等）
☐3. 健康に関する教育と行動変容のためのプログラムを提供している
☐4. その他（具体的にご記入ください） []

Q12. 日本 HPH ネットワーク(J-HPH)に参加されていますか？

☐1. はい ☒2. いいえ ☐3. わからない

→ Q13.へお進みください

上記の Q12. で「はい」と回答された方へ、お尋ねします。

上記の Q12. で「はい」と回答された方へ、お尋ねします。

Q12a. J-HPH へ参加されてから何年になりますか。

☐1. 1 年未満 ☐2. 1-3 年 ☐3. 3-5 年 ☐4. 6 年以上

Q12b. HPH の理念について、施設の**基本方針**などへ**明記**されていますか。

☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q12c. HPH を推進するために、**担当者や専門部署、チーム**などを**設置**されていますか。

☐1. はい ☐2. いいえ ☐3. わからない

Q12d. (Q12c)で「はい」と回答された方へお尋ねします。その部署・チームにはどのような職種が何名いますか。

専任 : ☐1.有()名 ☐2.無

職種 : ☐1.医師()名 ☐2.看護師()名 ☐3.社会福祉士()名 ☐4.事務部門()名
☐5.栄養士()名 ☐6.リハビリの療法士[PT,OT,ST]()名 ☐7.歯科医()名
☐8.歯科衛生士()名 ☐8.その他[()名

Q12e. HPH 活動により、これまでにどのような**活動や成果**が生まれましたか。(複数回答可)

- ☐1. 多職種カンファレンス院内指針 ☐2. 健康の社会的・経済的な要因に関するツールやガイドの導入
☐3. 地域活動の展開 ☐4.生活習慣に対する行動変容の介入の発展
☐5. 職員の健康づくりの進展 ☐6. 広報活動 ☐7.多施設共同研究
☐8. 学会・論文発表 ☐9. 書籍（翻訳含む）の発刊
☐10. その他(具体的にご記入ください) []

Q13. 我が国における HPH(Health Promoting Hospitals & Health Services)のネットワークが医療機関に広がりにくい理由として考えられることや普及のための提案など、ご記載ください。

Q14.これまで活動の中で、特に困難を感じたこと、改善策などがあればご記載ください。

★お願い：貴施設の**包括的なケア(予防*や社会経済・生活等への配慮)**の活動について**資料(記事、紹介文、パンフ等)**がございましたら、返信用封筒に同封していただければ幸いです。[*健診は除きます]

ご協力ありがとうございました。

○京都大学 大学院医学研究科 相談窓口：総務企画課 研究推進掛

TEL:075-753-9301 E-mail : 060kensui@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

○本調査相談窓口：京都大学 大学院医学研究科 医療経済学分野

TEL: 075-753-4454 /FAX: 075-753-4455 E-mail: heqm-office@umin.ac.jp

本調査の責任者：今中 雄一、担当者：佐々木典子